

## 自閉症スペクトラム障害

### 帝王切開の子 診断率高い

富大病院研究グループ

富大病院周産母子センター長の吉田丈俊教授らの研究グループは、帝王切開で産まれた子どもは、そうでない子に比べ、3歳時点で自閉症スペクトラム障害と診断される率が高かったと

発表した。女兒の方が男児より帝王切開での影響を受けやすい可能性があることも分かった。

環境省が2010年度から実施する疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加する母親と子ども6万5701組を対象に、出産方法と3歳時点での子どもの神経発達障害との関連、性別による違いを調べた。

男女全体では、帝王切開で産まれた子どもはそうでない子に比べて自閉症スペクトラム障害と診断される頻度が高かった。運動発達遅延や知的障害については大きな違いはなかった。性別で見ると、男児は産まれ方の違いで神経発達障害の発症率は変わらなかった。

研究グループによると、自閉症スペクトラム障害は先天的な脳機能障害の一種とされ、さまざまな要因から影響を受けると考えられているが、原因ははっきり分かっていない。

研究成果は、小児科学系専門誌「BMCピедиアトリクス」にオンライン掲載された。